

生きていく上で欠かすことができない「食」を未来につなぐ、私たちのまちの新規就農者や農業後継者などを紹介します。

霧島の農業をミライへ



宮田 晃輔さん(25) 国分出身、国分在住。
就農4年目。宮田製茶勤務。
営農類型：工芸農作物 経営作物：茶 営農面積：17.88ha



新

芽の美しい緑が広がる、国分郡田木原地区の茶畑でお茶づくりに励むのが、就農4年目の宮田晃輔さん(25)です。

家業であるお茶の仕事を本格的に学ぶため農業大学校へ進学し、経営や茶葉に対する知識を深めました。「物心ついた頃には、茶摘み機を運転する父の横に座っていました」と振り返る宮田さん。現在は茶葉を摘み取る工程を担当し、父・伸一さんと品質に関わる摘採の高さを調整しながら、茶葉の出来具合などを確認しています。摘採を終えると工場に入り、茶葉の状態を見極めながら、もみなどの作業を進め「お客さまに満足してほしいと思うと、気が抜けません」と真剣な表情を見せます。

宮田製茶では、木原小・中学校で25年にわたり「茶ふれあい体験」を続けています。「いつかは海外にも販路を広げたいですが、まずは地域の皆さんにおいしいお茶を届けたい」とほほ笑む宮田さんは、今日も真心を込めてお茶づくりに励んでいます。

寒暖差が生み出す、茶の香り

宮田製茶の茶畑は標高約300mに位置し、昼夜の寒暖差によって香り高く、うまみのある茶葉が育ちます。山あい特有の冷涼な気候が茶葉の味わいを引き立て、すっきりとした渋みと豊かな香りが特徴です。

宮田製茶では、甘みを感じやすいものや渋みを楽しめるものといった、好みに合わせて普段使いしやすいティーバッグなど3種類のパッケージを販売。国分じょうもん市場やAコープ国分店などで購入できます。

